



千葉労働動向

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号 (動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2939 番
(公) 043 (222) 7207 番

98. 5. 13 No. 4783

県内百万人署名運動が 大きく前進!

千葉県京葉地区連絡会結成される(5/7)

五月七日、船橋市内で日米安保ガイドラインと有事立法に反対する百万人署名運動千葉京葉(船橋・習志野・八千代・鎌ヶ谷)連絡会の結成集会在開かれた。この会は、京葉地区在住の賛同人らが集まって地域での百万人署名運動を推進しようと結成された。

冒頭、浦田船橋市議が開会あ



いさつ、記念講演を「いま、憲法があぶない」と題してよびかけ人の環直彌弁護士が行なった。環氏は、「憲法前文に平和主義と基本的人権は密接に結びついているという、憲法の基本的姿勢が表れている。憲法を修正することなしに、憲法を変えてしまふようなガイドライン関連法は法律実務家の立場からも許せない。憲法の危機を守るためにも百万人署名運動の推進を」と訴えた。

連絡会の結成にいたる経過報告と方針提起を中江船橋市議が行ない、地域・職場で五名の賛同人の獲得と署名の展開を訴えた。フリートークでは、市民・労働者・住民団体・労働組合などさまざまな賛同人・団体から発言が活発に行なわれ、京葉地区での運動の発展を誓い合った。百万人署名運動は県内各地で地域連絡会の結成にむけて大きく動きだしている。五月二〇日には、こうした地域連絡会を結ぶ千葉県連絡会の結成が県内在住のよびかけ人により予定されている。

ガイドライン関連法を許さず闘おう!

差別・排外主義許さず、5・24総決起集会へ

—第九回外登法・入管法と民族差別を撃つ全国研究交流集会—

五月十日、横浜市開港記念会館において「第九回外登法・入管法と民族差別を撃つ全国研究交流集会」が六百名の労働者・市民を結集して開催された。

橋本政権による新ガイドライン関連法の国会上げなど、労働者を戦争に動員しようとする攻撃が激化する一方、在日外国人などに対する差別・排外主義的な動きが一気に加速している。

集会では外登法・入管法、民族差別と闘う在日朝鮮人・中国人や闘う仲間から現場での苦闘や新ガイドラインのもとで進行する戦争への動きに対する強い危機感が痛切に訴えられた。

また、韓国民衆運動、戦争責任問題、沖縄闘争について、それぞれ韓国問題研究所所長の康宗憲(カンジョンウオン)氏、ルポライターの西野留美子氏、「基地・軍隊を許さない行動する女たちの会」の桑江テル子氏の三氏による講演が行なわれた。

康氏は、民主主義を掲げ登場した金大中政権のもとで、メンバー参加者に対する警察機動隊の襲撃的弾圧という事態がなぜおきたのか、「金大中政権下の韓国社会運動」と題して、金大中政権成立の背景とその現実について詳しく展開した。国際通貨基金(IMF)に緊急援助を申請するほど韓国経済が深刻な危機に陥るなかで八五%という高い支持率で登場した金大中政権。それは南北分断を前提とした独裁体制を打破する期待だったが、金大中が行なったことは

「整理解雇制」導入(一日一万人規模の失業者の創出)であり、労働者に犠牲を集中して経済危機を乗り切ろうとするものだった。政治犯の釈放もほとんど行なわれず、民主化は名ばかりとなるなかで、支持率は一カ月で二〇%もさがり、失業者は一三八万、率にして六・五%になっている。このなかで民主労総を先頭に整理解雇制撤廃をかけた五・一メーデーの闘いがあつた。最後に康氏は、「韓国での昨年末のゼネストを可能にしたのは国際連帯の力だ。このアジアで真の平和をつくるために共に闘いましょう」と結んだ。

また、沖縄現地から一五〇名で上京し、五月八日、十日の三日間、銀座や原宿で「振興策つきの基地を大安売りします。基地はいらんかね」とブラックユーモアをふりまいて基地撤去を訴えた「行動する女の会」の桑江氏は、沖縄特措法改悪の強行成立から一年、新ガイドライン関連法案が同じように国会で強行成立されようとしていることに対し、どんなことをしても阻止しなければならぬと訴え、

「今、なにをすべきか。ただの人がたちあがるときだ。ただの一人の民よ、目覚めよ」と熱烈なアピールを行なった。

差別・排外主義と闘い、新ガイドライン関連法を廃案に追い込もう。五・二四総決起集会に全力で決起しよう。